○三部

松壺庵 雲羅撰

月の座を一張なしたの花
鞍日の座にて四十五重の姫
ふちく次の子紀之を基の姫
五重は浮りに深まる向きの花
蓋の滑を出る今や木の雲
雄の重は味ひ清き舞の姫
桜は咲くまへ物くる小村の姫
五桜や面の明るき滑石の花
長山や浮りける老の吸出し
蔵六やをされき物を老の友
船行は旅きの和や桜は出
芳州に津と桜子の繰りを堂

桜鳩 宋成 一雪 桂山 雪竹 一橋 一橋 三友

宋雪 宋富 其樫 如川

○五部

雀木は国は花を千代の春
蓋の方の音や萬人日の四方
おきのりや松の翠を金の花
仙の歌を詩を花の勢物霞

宋雪 三友 水音 一橋

六部

蓋や潤子蘭の勢 行き出せし
井の花を稲毒州

松鳩 旭岐

○三部

鶴雪庵 春坡撰

遠ふ日も出く日の立や松の内
春山やおちく見ゆる日の出あり
舟を呼ふ蓋の霞を演出来
滑石口や小無年 残る春は雪
毎山をまく明るくは初のくを
初鶴や物ひまきれは春は出り
捨る手ふ春は雪を初のくを
見世は見る程雲しき春の花
下菊や大根園ふ畑の春
ふる雨を素直にうける柳の花
桜の春や春を春は雪の
元日や雪の花は光る大刀袋

宋成 一雪 松鳩 翠崖 三友 雪竹 其樫 春丸 宋富 鹿堰 如川 一橋

正五三部

御出し春立春の雪を御
白重の留り日陰然ちの花
針を吹は春の立志を重ね
芳州に津と春の繰りを堂

宋雪 桂山 如友 如川

六部

宋の花を春の花の蓋の蓋
陣の下来を春の花の内
出来ぬ春の花の蓋の蓋

旭岐 宋雪 如川

物

奥は日や廣羅 宋雪
空し毎年見ゆる 春坡
月の花の葉は
雪くれ見ゆる 雪羅

宋雪 熱連

幸実 吹し

松和出